

## 第4章 まとめ

### 第1節 ハコモノ及びインフラの将来更新費の節減効果

本計画に掲載したハコモノマネジメント及びインフラマネジメントの考え方に基づく取組みを実施した場合の将来更新費の不足額の改善状況を整理します。

本計画におけるハコモノ及びインフラの更新可能額は平均51億円/年、取組み実施後の将来更新費は平均63億円/年となることから、不足額は平均12億円/年まで改善されることが見込まれます。

今後は不足額平均12億円/年の解消に向けて、民間資本の活用や保有資産の収益化などの新たな取組みによって更新財源を確保していくことが求められます。

図 ハコモノマネジメントの3R及びインフラマネジメントの3Rに基づく取組み

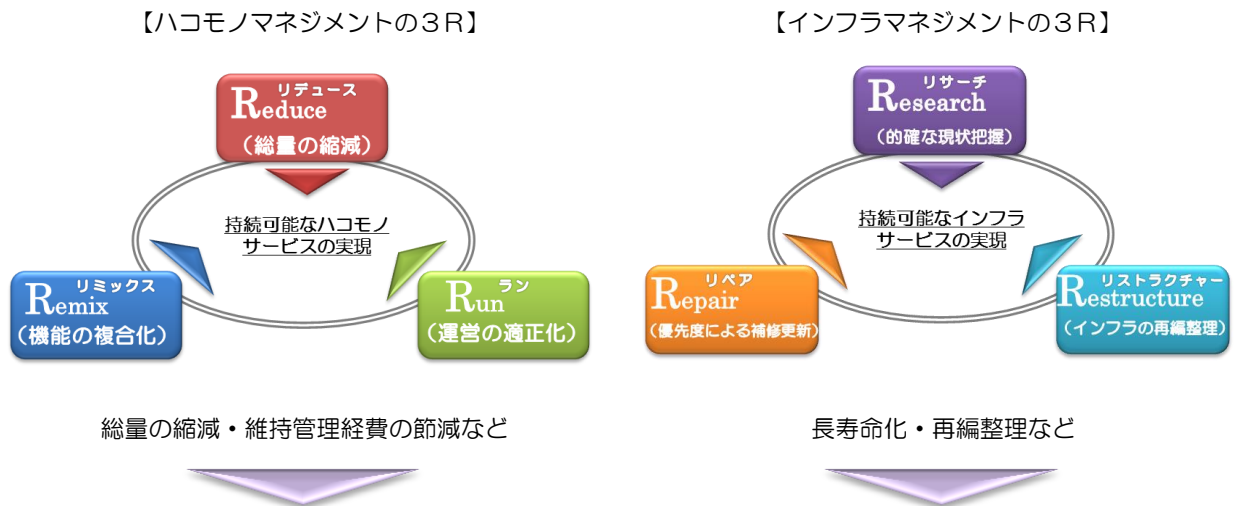
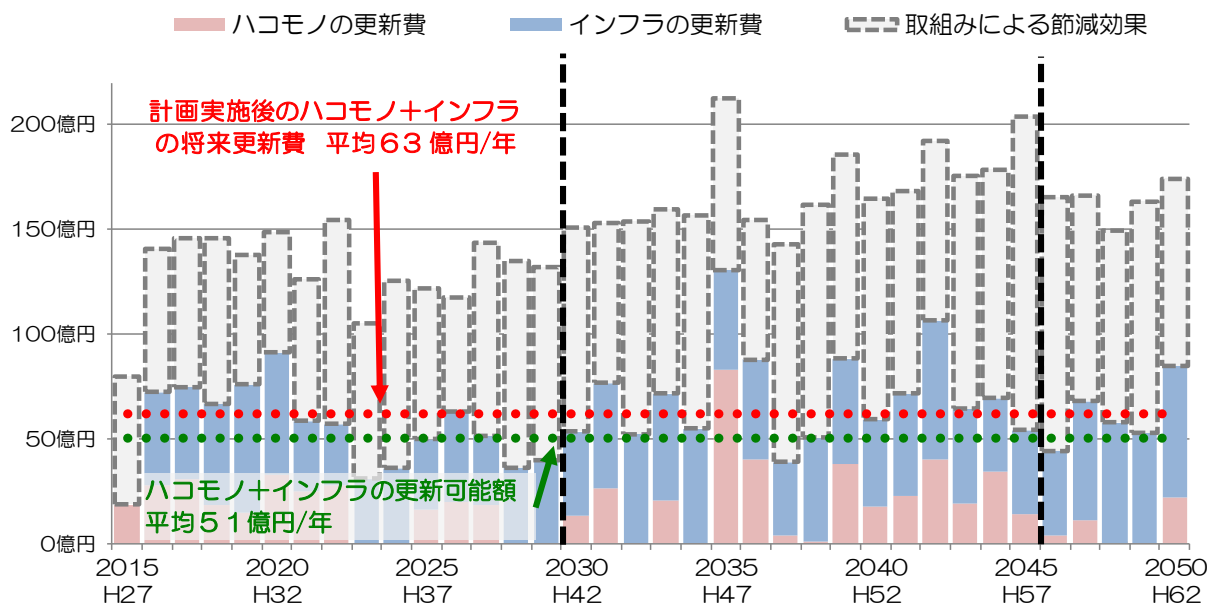


図 3Rに基づく取組みを実施した場合のハコモノ及びインフラの将来更新費の節減効果



## 第2節 計画の推進体制及び情報共有の考え方

本計画で整理したハコモノ及びインフラの3Rに基づき、縮小や複合化、移転などの各種事業の実施について、公共施設所管課において調整を図り、庁内の決定機関である総合政策会議と部門横断的な組織であるFM推進会議が相互連携して進捗管理を行っていきます。

また、庁内における検討結果を踏まえ、地域住民や関係団体のみなさんとの情報共有や意見交換などによる推進協議の場を設けることで、必要とされるニーズを把握しつつ効果的な取組みを推進していきます。

図 伊賀市のFM（ファシリティマネジメント）の進め方

